

資料報告：石垣市野底崎遺跡から出土した埋葬人骨の頭蓋形態

澤浦 亮平

Material report: morphology of a buried human skull
excavated from the Nusukuzaki site, Ishigaki city, Okinawa, Japan

Ryohei SAWAURA

沖縄県立博物館・美術館，博物館紀要 第16号別刷

2023 年 3 月15日

Reprinted from the
Bulletin of the Museum, Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, No.16
March, 2023

資料報告：石垣市野底崎遺跡から出土した埋葬人骨の頭蓋形態

澤浦 亮平¹⁾

Material report: morphology of a buried human skull
excavated from the Nusukuzaki site, Ishigaki city, Okinawa, Japan

Ryohei SAWAURA¹⁾

Abstract

This paper is a material report on morphology of a human skull excavated from a square tomb built of stones in the Nusukuzaki site located on a sand dune in the northwest part of Ishigaki island. The skull specimen is estimated to be 30-40s male and belong to 16th century based on the morphology and the artifacts excavated together. Some dentin of bicuspid and premolars and some enamel of molars are carious. The result of PCA based on 6 cranial measured values suggests that not only the unique morphological feature of the high position of the face, but the history of intense human traffic and interaction in Yaeyama since the 16th century.

はじめに

石垣島北西部に位置する野底地域には下田原期（約4,200～3,500年前）から琉球王国時代にいたる遺跡が点在する。当地域のリゾート開発を契機とする平成13・14年度の遺跡の緊急調査によって、砂丘上に立地する野底崎遺跡からは、16世紀に遡りうるものを含む5基の保存良好な方形石組墓が確認されている（石垣市教育委員会2011）。当館では、これらの墓から出土した人骨を石垣市教育委員会から寄託を受け、収蔵庫で保管してきた。同様に寄託を受けた古人骨資料は少なからず存在するが、こうした資料は緊急調査によって収集されて以後、様々な事情により整理不十分であることも多く、積極的な活用は未だ少ない。そこで小稿では、寄託を受ける多数の古人骨資料の今後の公開・活用の促進を目指し、野底崎遺跡から出土した埋葬人骨の基礎整理を進めたのでその経過報告を行う。

野底崎遺跡 第1号方形石組墓（図1）

平成14年（2002年）の野底崎遺跡の調査によって砂丘地後背の琉球石灰岩上に方形に石組を巡らしテーブルサンゴを被せた方形石組墓が5基確認され

た。そのうちの第1号方形石組墓では複数の埋葬施設が確認されている。遺物は、青磁、中国産染付、褐釉陶器などで、16世紀にさかのぼる。西側から順に1号、2号、3号と名付けられた人骨はいずれも膝を強く曲げ、仰臥屈肢の姿勢をとって埋葬されていた。

第3号人骨

性別

乳様突起および大座骨切痕の形状から男性と推定された。

年齢

寛骨の恥骨結合面および耳状面の形状から30～40代とみられた。Lovejoy（1985）の歯の咬耗度による指標では、上顎歯がG（35～40歳）、下顎歯がF～G（30～40歳）に相当する。

歯

鉗子状の咬合で前歯の咬耗が臼歯よりも進行し、上顎では右側が左側よりも若干咬耗が進む。歯槽の退縮が上顎、下顎ともに著しい。下顎前歯歯頸部の唇側に歯石が沈着する。右上顎第1切歯、左・右上顎犬歯、左上顎第1・

¹⁾ 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1. Omoromachi, Naha, Okinawa 900-0006 Japan

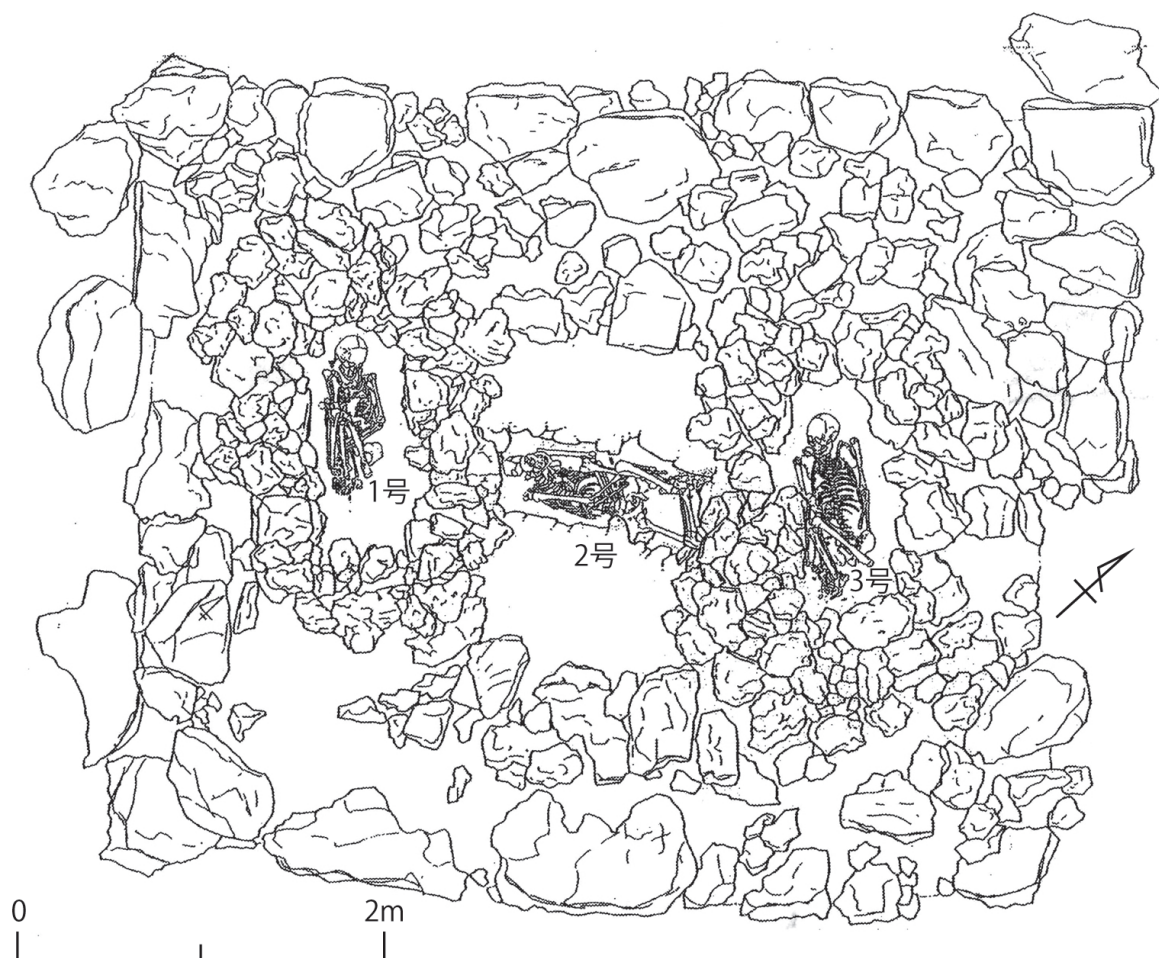


図1 野底崎遺跡 第1号方形石組墓の平面図
(石垣市教育委員会2011 第7図を一部改変)

2 小白歯の象牙質に小さなピット状を呈する齲蝕が認められる。左上顎第1 小白歯は近心部のエナメル質との境界部に帯状に齲蝕が広がる。右上顎第3 大白歯の近心部の中央溝から頬側溝にかけてのエナメル質に軽度の齲蝕が認められる。下顎歯においては、右下顎第1・2 小白歯の象牙質にピット状を呈する齲蝕が認められた。また、左・右下顎第1 大白歯の遠心の中心溝および左下顎第2・3 大白歯の中心窩周辺部のエナメル質に軽度の齲蝕が認められた。

計測的検討

馬場（2017）の方法に準じて計測を行った。計測値を表1、2、4に一覧する。また、頭蓋形態小変異の出現状況を表3に示す。さらに、頭蓋計測値6項目に基づく主成分分析に

よる他集団との比較の結果を図3に示す。頭型は短頭、狭頭を特徴とし、主成分分析による他集団との比較の結果では高顔の傾向が際立った。意外なことに近隣の17～19世紀の野底遺跡出土人骨とはもっとも遠縁という結果となった。今後の十分な検討を要するが、16世紀以降の八重山における人の往来と交流の活発さがこの結果の背景にある可能性が考えられ、より詳細な研究を実施する必要がある。四肢骨については本稿で触れることができなかったが全体的に頑丈である。



8	7	6	5	4	3	○	1	1	×	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

○：歯槽開放， ×：歯槽閉鎖

図2 第3号人骨の頭蓋と歯式

表1 頭蓋の計測値 (mm)

Martin's no.		
Linear cranial measurements		
1	脳頭蓋最大長	184
5	頭蓋底長	(107)
8	脳頭蓋最大幅	(151)
11	両耳幅	141
12	最大後頭幅	(110)
17	バジオン・プレグマ高	(150)
26	正中前頭弧長	129
27	正中頭頂弧長	135
29	正中前頭弦長	110
30	正中頭頂弦長	116
40	顔長	(101)
42	下顔長	114
43	上顔幅	(116)
44	両眼窩幅	(99)
47	顔高	122
48	上顔高 (av)	75
48	上顔高 (pr)	72
50	前眼窩間幅	23
51	眼窩幅	37
52	眼窩高	33
55	鼻高	52
57	鼻骨最小幅	8
61	上顎歯槽突起幅	67
63	口蓋幅	41
65	下顎関節突起幅	(137)
66	下顎角幅	111
69	オトガイ高	38
70	下顎枝高	R 65/L 66
71	下顎枝幅	R 34/L 33
Angle measurement		
72	全側面角	92
73	鼻側面角	90
74	歯槽側面角	91
Index		
$(1+8+17)/3$	頭蓋モジュール	161.7
8: 1	頭蓋長幅示数	82.1
17: 1	頭蓋長高示数	81.5
17: 8	頭蓋幅高示数	99.3
52:51	眼窩示数	89.2
71:70	下顎枝示数	R 52.3/L 50.0

() は計測基準が不明瞭なため参考値であることを示す

表2 顔面平坦度に関する計測値 (mm)

前頭骨弦	105.8
垂線高	16.5
平坦度示数	15.6
鼻骨弦	8.1
垂線高	2.6
平坦度示数	32.1

表3 頭蓋形態小変異の出現状況

	右	左
前頭縫合	-	-
眼窩上神経溝	+	-
眼窩上孔	-	+
ラムダ小骨	-	-
横後頭縫合痕跡	-	-
アステリオン骨	-	/
後頭乳突縫合骨	-	/
頭頂切痕骨	/	/
顎管開存	/	/
前顎結節	-	/
傍顎突起	/	/
舌下神経管二分	-	/
フシケ孔	-	-
卵円孔棘孔連続	/	/
ヴェサリウス孔	/	/
翼棘孔	/	/
内側口蓋管	+	+
横頬骨縫合痕跡	+	/
頸静脈孔二分	/	/
矢状洞溝左折		+
鞘状突起間骨橋	/	/
顎舌骨筋神経溝骨橋	-	-

+: あり, -: なし, / : 欠損

表4 永久歯の計測値 (mm)

歯冠幅 (近遠心径 /MD)		右	左
上顎	I1	×	×
	I2	/	/
	C	6.68	7.19
	P1	6.56	6.05
	P2	6.84	6.19
	M1	10.21	9.24
	M2	9.77	9.13
	M3	9.20	8.93
下顎	I1	4.72	4.88
	I2	4.93	5.14
	C	7.02	7.53
	P1	7.57	7.52
	P2	7.63	7.48
	M1	9.90	10.10
	M2	11.21	11.38
	M3	12.04	12.13
歯冠厚 (唇・頬舌径 /BL)			
上顎	I1	×	×
	I2	/	/
	C	8.70	8.77
	P1	9.55	9.80
	P2	9.93	10.32
	M1	11.06	11.13
	M2	10.97	11.48
	M3	11.26	11.09
下顎	I1	5.67	4.66
	I2	5.49	4.49
	C	8.05	5.60
	P1	8.23	7.57
	P2	9.27	8.57
	M1	11.04	10.89
	M2	10.65	10.82
	M3	10.54	10.18

/ : 欠損, × : 残存するが, 咬耗ないし破損のため計測不可

まとめ

小稿では、石垣市野底崎遺跡の第1号方形石組墓から出土した第3号人骨の頭蓋形態について報告した。

形態学的な特徴から、30-40代の男性に由来するもので、歯槽骨が著しく退縮していること、前歯および小臼歯の象牙質や臼歯のエナメル質に齲蝕があること、主成分分析から高顔が際立つこと等を示した。

本資料は、琉球王国時代の八重山における具体的な葬制のみならず、人々の暮らしぶりや活発な往来と交流を探る上でも重要な情報を引き出しうることが改めて確認されたため、類例を含め今後も継続的に資料の基礎整理と調査研究を進めていくことが肝要であると考ええる。

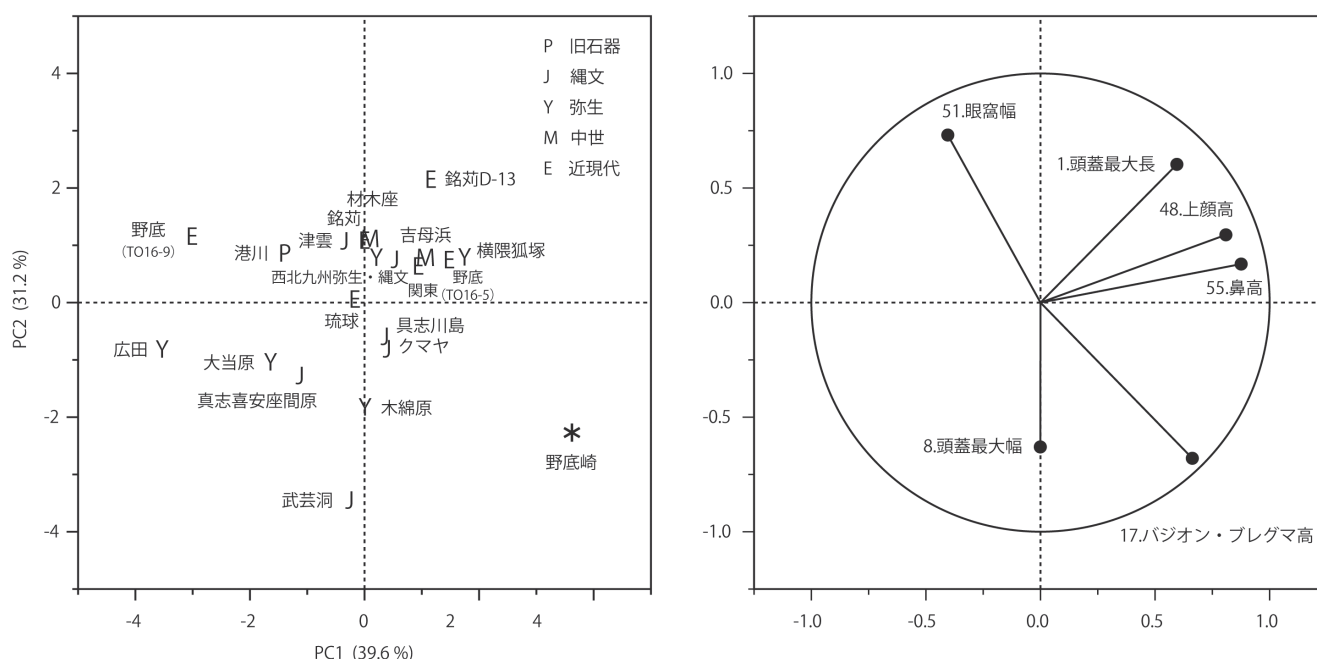


図3 成人男性の頭蓋計測値6項目に基づく主成分分析の結果

旧石器: 港川 (Suzuki and Haninara ed.1982) 縄文: [津雲 (分部ほか1999), 具志川島・真志喜安座間原 (松下・太田1993), 武芸洞 (澤浦ほか2022)] 弥生: [広田 (松下・太田1993), 大当原 (小橋川ほか2009)] 中世: 吉母浜・鎌倉材木座 (分部ほか (1999)) 近現代: 銘苅・琉球人・関東人 (分部ほか1999), 銘苅D-13 (土肥・譜久嶺1999), 野底 (土肥・小橋川2016)

引用文献

- 石垣市教育委員会. 2011. 野底遺跡. 石垣市文化財調査報告書第33号.
- 石垣市教育委員会. 2016. 野底遺跡. 石垣市文化財調査報告書第35号.
- 小橋川毅・片桐千亜紀・徳嶺理江・本村麻里衣・大城歩・天願瑞笑・菅原広史・土肥直美・米田穰. 2009.
- 沖縄県読谷村大当原貝塚出土人骨について一大当貝塚集団の身体的特徴―. 沖縄埋文研究6: 27-40.
- 澤浦亮平・藤田祐樹・山崎真治. 2022. 南城市武芸洞遺跡の石棺墓から出土した人骨に関する追加報告. 沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要 15: 33-42.
- 土肥直美・小橋川剛. 2016. 出土人骨分析結果報告. 野底遺跡. 石垣市文化財調査報告書第35号: 125-144.
- 土肥直美・譜久嶺忠彦. 1999. 那覇市銘苅古墓群南 (A・C・D) 地区出土の人骨. 1999. 銘苅古墓群 (Ⅱ). 那覇市文化財調査報告書 第40集. 175-187.
- 馬場悠男. 2017. 人骨計測法各論. 人類学講座編纂委

員会, 人類学講座 別巻1 人体計測法【新装版】: 73-352.

- 松下孝幸・太田純二. 1993. 沖縄県具志川島遺跡群出土の古人骨. 具志川島遺跡群. 伊是名村文化財調査報告書 第9集: 215-244.
- 分部哲秋・佐伯和信・弦本敏行・長島聖司. 1999. 那覇市銘苅古墓群B地区3号及び4号墓出土の人骨. 銘苅古墓群 (Ⅱ). 那覇市文化財調査報告書 第40集. 191-254.
- Lovejoy, C. O. 1985. Dental Wear in the Libben Population: Its Functional Pattern and Role in the Determination of Adult Skeletal Age at Death. American Journal of Physical Anthropology 68: 47-56.
- Suzuki, H. and Hanihara, K. ed. 1982. THE MINATOGAWA MAN The Upper Pleistocene Man from the Island of Okinawa. The University Museum The University of Tokyo, Bulletin No.19.